

## 西武バス×新座市

## EVバスによる電力の供給等に関する協定を締結

西武バスとして初 EVバスを避難所等に派遣し電力の供給を行います

西武バス株式会社（本社：埼玉県所沢市、代表取締役社長：塚田正敏）は、新座市と「災害時におけるEVバスによる電力の供給等に関する協定」を5月26日に締結いたします。

この協定を締結することで、災害時、新座市からの要請に基づき、西武バス新座営業所の電気バス（以下「EVバス」）を避難所等へ派遣し、外部給電器を介してEVバスから取り出した電力を供給することになります。

自然災害の頻発化・激甚化が進む中、有事の際には、新座市が指定する避難所で、多くの人々が一定期間過ごすことが見込まれており、避難施設においても、計画停電などにより安定した電力供給確保が困難な状況となることが予想されています。このような状況下において、EVバスを派遣し電力供給を行うことで、人々のライフライン確保に寄与するべく協定の締結に至りました。

西武バスがEVバスを使用しての電力供給に関する協定を締結するのは今回が初めての試みとなります。この協定は、西武グループの経営理念である「グループビジョン」に基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとして積極的に推進している「サステナビリティアクション」の一環としても位置付けることができるもので、来るべき自然災害に対し、予め地方公共団体とのパートナーシップを強化するとともに、災害に強い街づくりに貢献し、避難所の環境を整備することにより気候変動問題への具体的な対応を進めることを目指したものです。

引き続き西武バスでは、沿線地方公共団体との連携を強化し、より広く社会や地域の皆さまへの貢献に繋がる取り組みを進めてまいります。

詳細は以下の通りです。

## 【主な協定内容】

- (1) 新座市からの要請に基づき、避難施設等に当社EVバスを派遣
- (2) 必要な人員を要請場所に派遣し、EVバスから外部給電器を使用して電力を供給

## 【EVバスからの給電について】

（車両概要） BYD社製大型電気バス「K8（読み：ケーエイト）」  
2両保有（西武バス新座営業所所属）

EVバスから外部給電器を介して電気を取り出し、様々な用途で電気を使用することが可能です。

EVバス1台から取り出せる電気量の目安は287kWhとなります。



EVバス

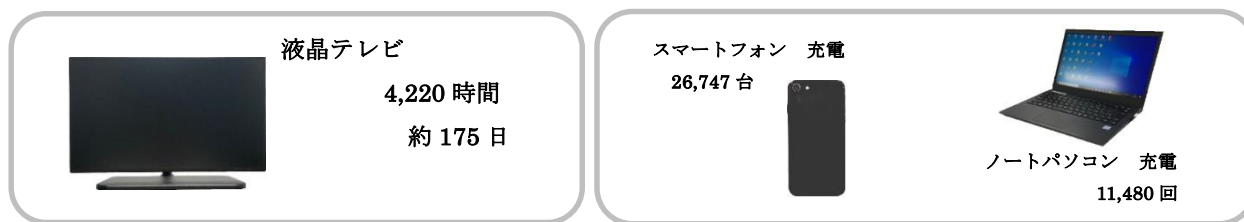


外部給電器



避難所

また、使用例の目安としては以下のとおりです。



#### 【西武バス新座営業所について】

西武バス新座営業所では、屋根に太陽光発電設備を設置し、発電される電気を営業所施設に供給して自家消費するオンサイト PPA<sup>※1</sup>を導入しており、加えて非化石証書付き電力<sup>※2</sup>供給により、夜間含むどの時間帯においても、実質再生可能エネルギーのみを使用しており、使用電力において 100%カーボンニュートラルな営業所運営を実現しています。

この設備により、災害時に停電した場合でも、充電された EV バスを避難施設などに派遣して電力供給を行うことができるほか、営業所の運行管理機能が維持されることでバス運行が継続でき、地域住民のライフライン確保や地域レジリエンス強化に大きく貢献することが可能です。

#### ※1 オンサイト PPA とは…

PPA 事業者が所有する太陽光発電設備を、需要家（電気を使用する企業）の敷地や施設に設置し、需要家が PPA 事業者から発電した電気を購入して自家消費する契約形態のこと

#### ※2 非化石証書付き電力とは…

特定の電源種（再生可能エネルギー）や発電所所在地などの付加価値的な属性情報をトラッキングし紐づけをした非化石証書と、通常の電力を組み合わせた、実質 CO<sub>2</sub>フリーの環境価値付電力のこと

#### ■「西武グループサステナビリティアクション」

西武グループの経営理念である「グループビジョンに基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「サステナビリティアクション」として推進しています。特に、事業を通じて創造する社会価値として「4 領域と 12 アジェンダ（重点テーマ）」を設定し、積極的に取り組んでいます。地球温暖化抑制への更なる貢献に向け、環境負荷削減目標として、CO<sub>2</sub> 排出量をグループ全体で 2030 年度までに 2018 年度比 46%削減を設定しております。

詳細ページ：<https://www.seibuholdings.co.jp/sustainability/>

